

# 金沢医科大学 氷見市民病院



新雪の立山・剣連嶺(雨晴海岸)

## 年頭の挨拶

竹越 襄 金沢医科大学副理事長・CEO

高島茂樹 病院長

## 新病院建設に向けて

各設計業者からの提案のパーズ





## 年頭の挨拶

平成21年1月5日(月)午後4時半から、金沢医科大学氷見市民病院2階講堂にて竹越 襄最高経営責任者(CEO)及び高島茂樹病院長から職員に対し年頭挨拶が行われました。地域の皆さまには、病院の運営方針を知っていただく機会として、その要旨をご紹介します。

### “智・仁・勇”を結集して良き病院づくりを

金沢医科大学副理事長・CEO 竹越 襄

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしく申し上げます。年末年始に仕事に出られた方は本当にご苦労さまでした。

昨年は、世界的な経済の大恐慌の渦中で、国内では契約社員の解雇、学生の内定取り消しなど失業者の増加が懸念されております。医療界においては、後期高齢者の問題、医療費の削減、全国的な医師不足問題など多くの難題が未解決のまま年を越しております。

金沢医科大学氷見市民病院は昨年4月にスタートしましたが、現在も満足のいく診療体制を形成することに困難を極めております。新研修医制度が発足してからの特に地方における医師不足が当病院にも影響していると考えられます。今年は医師確保の問題を中心に取り組みたいと思っております。

- 1) 病院長を中心とした“医師獲得プロジェクトチーム”の立ち上げと、北陸三県の大学連携協議会の開催による医師獲得運動を進めるつもりです。
- 2) 最近ようやく氷見の患者さんとのいわゆる patient-doctor relationship がとれるようになりました。減少した患者さんを再び当病院に呼び戻せるよう、“いつでも誰でも安心して罹れる病院”を目指して医療スタッフを充実したいと思っております。

最後に夢を話したいと思えます。新病院の建設は平成23年春に竣工予定ですが、職員の皆さんには自分たちの病院作りという感覚で色々調べて意見を述べて頂きたいと思えます。将来の二期、三期の計画になりますが、職員宿舎、看護宿舎、看護専門学校を視野に入れた関連施設の建設、スポーツ施設、病院と直結したシニアハウスの構想などがあります。また、大学病院の付属施設として恥ずかしくないような基礎及び臨床研究棟も将来必要になるでしょう。

ソフト面では、大学病院の役割りとして、人的養成いわゆる医師・看護師の教育があります。地域医療の前線として学生の実習カリキュラムを作成し、地域医療、僻地医療の教育に当たらねばなりません。病院の特性を生かして総合医や家庭医などの教育の場としても重要です。また“メディカルスクール”構想もあります。これは医師不足の特効薬になる可能性があります。氷見にこの施設を置き30~40人の医学生を育てたいとの考えです。

少し長くなりましたが、この正月休みに読んだ本で新渡戸稲造著の『武士道』があります。“智・仁・勇”が武士の本分と書いてあります。この医療界の危機を「知恵」と「仁徳」と「勇気」で乗り切ろうではありませんか。皆さんの絶大なるご支援をお願いいたします。



### 使命感と情熱を持って患者さんと接することの大切さ

病院長 高島 茂樹



明けましておめでとうございます。今年のお正月は雪もなく、皆様には穏やかな新年を迎えられたことと思います。

昨年の4月に、金沢医科大学が指定管理者として氷見市民病院の運営を行ってから、早や1年が経過しようとしています。この間、患者さんの引継ぎや診療システムの把握などで、ほんとうにたいへんだったと思いますが、皆様のご協力により、大きな事故もなく、病院の運営を行うことができましたことに対し、厚く御礼を申し上げます。まだまだ課題は山積しておりますが、全職員の力を結集して、着実に対応していくことが重要であると思っております。

本日は年の初めですが、これまでに病院全体として取り組んできた課題と、今後の計画をお示しして年頭の挨拶といたします。

### ■平成20年度の取り組み

診療体制の整備、収益増加対策、経費削減対策、経営管理体制の強化

### ■これからの計画

常勤医師の確保、看護師の確保、救急体制の整備、専門医療への対応、健診・ドックの拡充

### ■新病院の建設

病床数250床でうち50床程度を回復期リハビリテーション病棟ということが建設の基本骨子となっています。最終的には今後の具体的な実施計画で病床数や診療機能の規模を決定することになります。基本設計の検討に当たっては、職員の皆さんから十分に意見をお聞きして進めたいと思います。

最後に、「金沢医科大学氷見市民病院の在り方」について、私なりの考え方をお話ししたいと思います。患者さんが病院に求めるものは「安全に安心して良質の医療が受けられる」ということです。しかし、これは当たり前のことで医療人として当然のこととして処理すべき課題と考えます。むしろ私ども医療側は如何に使命感と情熱を持って患者さんと接することができるか、こうした心をこめた対応が結果として自己の働きがいや満足感、達成感に繋がります。そして、患者さんからの信頼は金沢医科大学氷見市民病院のブランド性を高め、病院職員のプライドの醸成に結びつきます。医療側と患者さんとのこうした良好な関係が維持できるよう、病院管理者はしっかりと全体に目配せをして働きやすい職場環境の整備を行うこととなります。これからやらなければならない喫緊の課題がたくさんありますが、職員一丸となって取り組む姿勢が大切です。地域医療への貢献を通じて、「生きがい」と「働きがい」を実感できる病院づくりにご協力をお願いして、新年の挨拶といたします。

## 新病院建設に向けて 設計プロポーザル・プレゼンテーション行われる

氷見市民病院の建物は、昭和41年に第1病棟、外来診療棟、昭和59年に第2病棟、中央棟、リハビリ棟が建てられましたが、いずれの建物も老朽化による施設面での弊害も多く医療環境が悪化しています。こうした状況の中、金沢医科大学氷見市民病院が地域の期待に応え、新しい時代に相応しい病院として生まれ変わり、効率的で質の高い医療を提供していくためには「新病院」の建設が必要不可欠となっております。

病院の建設基本構想は、現在、氷見市及び金沢医科大学の合同プロジェクトチームで検討が進められていますが、去る平成20年12月25日(木)、建設のパートナーとなる建築設計事務所選考のため、設計プロポーザル(プレゼンテーション)が病院内で行われ、氷見市職員・病院職員・大学職員など約110名が4社からの説明を受けました。

一般的に病院建築は建てている瞬間から改修が始まると言われるほど、その時のニーズに対応していかなければならない建物であり、医療環境情勢も大きく変動を見せている昨今、病院建築も進化しており、ユニバーサルデザインや感染対策・省エネなどは改めて言うまでもなく当然のこととなっており、華美にはならず実用的であり、フレキシビリティ・リニューアリティに高い建物、患者さんにも職員にもやさしい病院造りが主流になりつつあるようです。

今後の予定としては、設計業者の選定を経て、約1年をかけて基本設計・実施設計が行われ、建設は平成22年から始まり平成23年春の完成を目指しています。

### ■病院規模

- ・250床程度を想定  
一般病床200床程度、回復期リハビリテーション病棟50床程度、結核病棟

### ■診療体制

- ・ハートセンター(仮称)の開設[6床程度:CCU4床、ICU2床](急性心筋梗塞、急性心不全及び重症不整脈の治療)
- ・原則、現行20診療科(院内標榜25診療科)を継続する(一部再編も検討)
- ・診療科横断的な外来診療体制(循環器及び消化器の領域におけるセンター設置)
- ・専門外来の開設(乳腺、甲状腺、ストーマ、化学療法、禁煙外来、尿管尿管結石)

- ・内視鏡室の拡充(消化器がんを対象とした内視鏡検査の応需体制の強化)
- ・手術室の拡充(心臓手術及び消化器がんへの対応)
- ・健診及びドックの拡充(生活習慣病の予防・早期発見、健康管理センターの稼働)
- ・救急医療体制の整備(ソフト・ハードの両面での整備)
- ・災害時医療の体制整備(地震や災害時の医療提供を可能とする構造と設備)
- ・透析センターの拡充(透析台数の増加)
- ・電子カルテの導入など

### ■医療情報システム

- ・電子カルテの導入(電子カルテを中心とした病院業務全般の情報を含む医療情報システム)
- ・医療機関情報ネットワークの構築(医療データベースの



- 活用、遠隔診断支援システムの活用など)
- ・個人情報保護等の情報セキュリティ対策

■施設・設備

- ・外来ブロック受付の導入
- ・再来受付機の導入
- ・患者とスタッフの動線に配慮した機能的な環境づくり
- ・効果的なサインシステムの導入
- ・機能的なオープンカウンターの設置
- ・個室対応型の空調設備の導入
- ・駐車場を含めた建物全域のバリアフリー化

■職場環境

- ・医局及び共同研究室等の設置(機能的な配置)
- ・医師当直室の設置
- ・看護師等、医療従事者用の仮眠室の設置
- ・職員ラウンジの設置

■建設場所

- ・能越自動車道氷見ICと現病院との中間に位置する。鞍川地内の有磯高校周辺用地(29,137㎡)。

各設計業者からの提案のパーズ (50音順)

提案依頼設計業者：(株)浦建築研究所、(株)中川建築設計事務所、(株)山下設計、(株)横河建築設計事務所



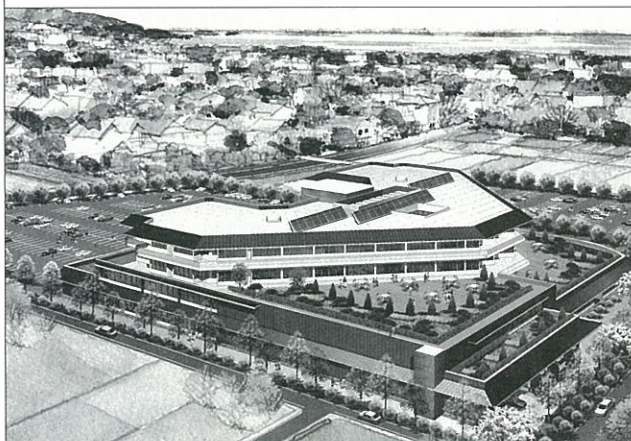
株式会社 浦建築研究所

氷見の海岸線をモチーフとしたガラスのWave、さざ波をイメージしたガラスブロックの壁、前面道路側に正面玄関を配置した東西長方形型病棟を提案。



株式会社 中川建築設計事務所

冬の冷たい西風を避けるためピロティ(柱だけを残した拭き放し部分)を車寄せとし、眺望と日当たりを重視した三角型病棟を提案。



株式会社 山下設計中部支社

屋上庭園、風土に調和した外観、1階フロアで全ての診療が完結する患者さんにやさしい外来機能、南面採光を考慮した三角型病棟を提案。



株式会社 横河建築設計事務所

威圧感を与えないよう2階以上の外壁面は小さなボリュームに分割したデザイン、全ての病室からスタッフステーションが見えるダブルT型病棟を提案。